

### より良い就職先や専門知識求め

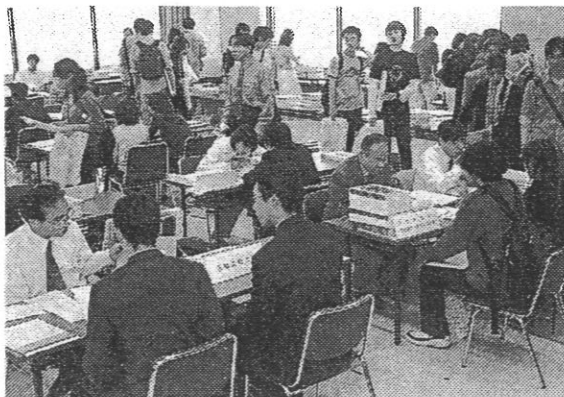
大学などに編入学を希望する学生が増えている。より良い就職先やより高い専門的知識を求め短大や大学から4年制大学の2・3年次に編入を望む学生たち。一方、少子化や大学経営への危機感からより多くの学生を確保したい大学側。両者の思惑に加え、1998年の学校教育法改正で専門学校修了者に大学編入学資格が認められたことも、「追い風」のようだ。学生と大学との橋渡し役を務める進学情報企業と編入学を扱う予備校関係者に事情を聞いた。

【尾賀 省三】

## 編入学希望学生が増加

### 大学側「経営安定」と歓迎

5月31日、大阪市北区に たちの熱気で包まれていた。あるビル26階の会場は若者 た。進学情報業「ジーベッ



にぎわう「大学編入学&大学院フェア」会場  
—大阪市北区角田町で5月31日午後

ク(大阪市北区)が開いた「大学編入学&大学院フェア」だ。立命館大や関西大、愛知大など京阪神や中部などの計51大学と編入学専門の4予備校が参加した。雨の中を訪れた500人以上の学生らは希望校のブースで、担当者に質問をぶつけていた。取得単位はどの程度認定されるのか、試験内容は？、編入学で卒業後に得られる資格は？、同社の編入学フェアは4年目。この業界では単分け的存在だといふ。今年は名古屋、京都、大阪の3会場で計1000人以上が訪れた。同社の斎藤隆司社長(46)は「参加者は毎年増加の一途。学生、大学側とも

真剣で、こちらが気おされそうになる」と笑う。

斎藤さんは言う。学生側からみた編入学の魅力は、①良い就職先が広範囲から選択できる②高度な専門的知識を得られる③4年制大学とキャンパスライフへのあこがれ。一方の大学側は、①大学経営の安定②優秀な学生を外部から確保すること、他の学生にも良い刺激になる——の3つだ。送り出す側の短大や専門学校も、卒業後の選択肢が増

今どき  
教育学'00



論文や志望理由書の書き方などを熱心に聞く学生たち—大阪市北区角田町で5月31日午後

え、学生募集に役立つとの判断から編入学に積極的という。

シ社が特集した編入学の合格体験記を眺んだ。短大で栄養学を専攻した女性は、短大で取得できない高校家庭科教員免許の取得を目指して編入の道を選んだ。「将来は高校の家庭科の先生になり、短大で習得した栄養士の知識も生かして、学校のクラブの栄養指導をしていきたい」と意欲的だ。また、短大の音楽科を卒業し、事務員に就職した女性は「もっとやりがいのある仕事を」と4年制大学の音楽学部へ編入した。編入学専門の予備校も活況を呈している。シ社のフェアに参加した「ECC編入学院」は今年で6年目。現在、西日本で6校を展開、約600人が学ぶ。学生は短大生3割、4年生6割、既卒者が1割。同学院の広報担当、小原雅弘さん(33)は「立命館大の場合、編入合格者の3〜4割がうちの出身」と胸を張る。

小原さんは「短大からの希望者は、学びたいことよりテストの点数で進路を決め、入学後に後悔して編入を目指す人が多い。4年制から入る人は、より専門性の高い学問を望む人がほとんど」と言う。「在籍大学の学費にうちの学費もですから、学ぶ人は大変。潜在的な入学希望者はもっと多いはず」と言う。

斎藤さんにアドバイスを聞いた。「希望の大学で何をしたいか、が大切。しっかりした目的意識がないと流されてしまうし、授業についていくだけでも大変。自分のステップアップにつながるものでないと入る意味がない」と明快だ。

編入学 短大などの卒業生が取得単位を生かし、志望大学に編入学すること。受験出版の旺文社によると、短大卒の編入学者は92年の6291人から99年度の1万4382人と2.3倍に増加。文部省調査では大学・短大進学率は95年の10%から99年は49%に上昇している。